

2026年1月19日

東京電力ホールディングス社長 小早川 智明様
原子力規制委員会委員長 山中 伸介様

柏崎刈羽原発6号機でたび重なる制御棒トラブル 柏崎刈羽原発の再稼働をやめよ

再稼働が予定されている柏崎刈羽原発6号機の制御棒でまたトラブルが発生した。今回は制御棒の引抜きを防ぐための警報が鳴らなかった。6号機の制御棒の引抜きに関するトラブルは2025年6月以降、立て続けに3件も起きている。構造的な欠陥が疑われる。

2025年6月30日 6号機制御棒1本で引抜きに使う電動機が正常に作動せず
2025年8月25日 6号機制御棒1本の引抜きができないトラブル
2026年1月17日 6号機制御棒の引抜きを防ぐ警報が鳴らないトラブル

1件目について東電は、制御盤の端子台で発生した細い線状金属が原因だとしているが、改めての調査が必要だろう。2件目について東電は、原因が未解明なまま、総点検も行わずに再稼働の準備を進め、原子力規制委員会・規制庁もこれを認めてきた。その矢先に発生したのが今回のトラブルだ。

私たちは、制御棒という安全上重要な機器のトラブルに際して、原因が未解明なまま再稼働手続きを進めるべきではないとして交渉、申入れなどを重ねてきた。すると東電は、分解点検で見つかったバリやビニール片等の異物はいずれもトラブルの原因ではないとの10月9日付東電資料の説明を変え、原因是分解点検で見つかったスラッジ等だと述べた。

しかし、どれほどの量がどのように影響したのか、なぜ当該制御棒だけに影響したのか、他の制御棒に問題はないのかについて、説明はされず、評価結果が示されることはなかった。最後には制御棒の引抜きができなかっただけで挿入はできるのだから問題はないと開き直った。

規制当局はどうか。驚いたことに原子力規制庁は、10月9日付東電資料をみていただけで、東電が原因是スラッジだと説明していることについては、1月8日の参議院議員会館でのヒアリングで「初めて聞いた」と述べた。現場の柏崎刈羽規制事務所は、原因がスラッジだと聞いてはいたが本庁には伝えていなかったという。規制庁・規制委としては、関心すらもたず、把握すらしてなかったのだ。

柏崎刈羽原発6号機の制御棒が未解明の問題を抱えていることは間違いない。危険きわまりない。トラブルに際して必要なトラブルの把握、徹底した原因究明、再発防止策、市民への説明、いずれもなされていない。東電に原発を運転する資格はない。規制庁・規制委にも責任がある。1月20日に予定されている原子炉起動を中止するよう強く求める。

原子力規制を監視する市民の会
規制庁・規制委員会を監視する新潟の会
国際環境 NGO FoE Japan